

資料 1

「急性網膜壊死の診断基準に関する後ろ向き調査研究」へのご協力をお願い

○ 急性網膜壊死について

急性網膜壊死は、ヘルペスウイルスが眼内、特に網膜に感染する事によって眼の中に炎症が起こる病気です。症状としては、目の充血・鈍痛・視力障害があり、網膜剥離に至ると失明する危険がある病気です。治療法は抗ウイルス薬の点滴、ステロイドの内服と点眼を行い、手術を行う場合もあります。

○急性網膜壊死の診断基準に関する調査研究の目的

この研究は杏林アイセンターを含めた国内7施設の大学病院および基幹病院眼科において、急性網膜壊死と診断された患者さんの眼症状および全身検査所見をカルテ上に記載されている範囲で調べ、それを基に急性網膜壊死の診断基準を作成する事を目的としています。この研究は厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業の助成を受けた臨床研究です。

○急性網膜壊死の診断基準に関する調査研究の後ろ向き研究方法

平成20年4月1日から平成23年3月31日までに杏林アイセンターにおかかりの患者さんで、急性網膜壊死を診断され、加療されている患者さんを対象として、眼所見として視力、眼圧、前眼部、眼底など、全身検査所見として採血結果、胸部レントゲン写真、ツベルクリン反応、眼内液検査結果など、それぞれ施行した検査の記録を調べ、急性網膜壊死に特徴的な結果が何かを調べます。次にこれらの情報を基に、急性網膜壊死と診断するために必要な眼所見および検査を調べ、急性網膜壊死の診断基準を作成します。個人情報には完全に保護致します。

本研究によって、我が国における急性網膜壊死の明確な診断基準が作られ、より早期の診断と治療開始に役立てる事が出来ます。

個々人の患者さんにとっては、日々の診察で得られる以上の利益はありませんし、また不利益を蒙ることもありません。

○急性網膜壊死臨床所見の後ろ向き研究へのご協力にあたって

ご自分の急性網膜壊死の眼所見および全身検査所見を調査される事をご希望されない患者さんは、ご遠慮なく医師またはスタッフにお申し出下さい。同意しないからといって、今後の診療に何ら不利益になるようなことはありません。

○この研究成果の公表について

参加施設のデータを総合し、その研究成果を論文等により公開いたします。公開内容には個人のプライバシーに関わることは一切含みません。

○ 費用について

あなたの急性網膜壊死の診断・治療は一般診療として執り行われますので、一般診療に要する費用のうち自己負担分についてはあなたが負担して頂く必要があります。

資料 1

す。それ以外の負担をお願いすることは一切ありません。

○ 本調査の共同研究施設

東京医科歯科大学病院眼科、東京医科大学病院眼科、大阪厚生年金病院眼科、
横浜市立大学病院眼科、山口大学病院眼科、北海道大学病院眼科

以上の点につきましてご不明な点がございましたら、医師またはスタッフまでお問い合わせ下さい。宜しくお願い致します。

杏林大学医学部附属病院

眼科 教授 岡田アナベルあやめ
慶野 博
渡辺交世

〒181-8611 東京都三鷹市新川 6-20-2

電話：0422-47-5511（平日 9:00～17:00）